

授業概要

この基礎演習では、1年次の教養演習で培った基礎力を基に、3～4年次の専門演習に繋ぐ学びとなります。保育所・幼稚園・小学校への就職志望学生を対象としているため取り扱う学習教材としては、やや広めの領域となります。具体的には、前半（15回まで）が「教材研究」を中心に、絵本・紙芝居・手遊び等（保育者用）の教材に加え、小学校低学年用教材（例えば、国語科「くじらぐも」や生活科「大きく育て私の野菜」）等を取り扱う予定にしています。

後半（16回以降）は、「研究の基礎力育成」を中心にした学習となります。授業では具体的な学習を通して3・4年次の研究・卒論作成等がスムーズに展開されるように、先を見据えた知識・技能の基盤育成を、2年生なりに実施します。最後に、2年次終りの春休み中に実施される第1回目の「実習」に向けた基本的な姿勢、日誌の書き方等の簡単な「実習関連学習」も予定しています。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	後半の学習にむけて
第2回	絵本とその特性	第17回	研究テーマづくり
第3回	絵本の読み聞かせ	第18回	研究の目的・方法
第4回	紙芝居とその特性	第19回	研究構想全体図
第5回	紙芝居で演じる	第20回	研究の実際
第6回	手遊びであそぼう	第21回	研究の中間発表会
第7回	低学年国語科教材「くじらぐも」通読	第22回	研究課題の修正
第8回	低学年国語科教材「くじらぐも」導入	第23回	研究課題の追求
第9回	低学年国語科教材「くじらぐも」展開	第24回	研究のまとめ
第10回	低学年国語科教材「くじらぐも」終末	第25回	研究発表会
第11回	生活科教材「大きく育て私の野菜」計画	第26回	実習にむけて
第12回	生活科教材「大きく育て私の野菜」導入	第27回	施設別実習
第13回	生活科教材「大きく育て私の野菜」展開	第28回	実習日誌の考え方
第14回	生活科教材「大きく育て私の野菜」終末	第29回	実習日誌の文章表現
第15回	前半のまとめ	第30回	まとめ

到達目標

- ①. 子ども理解や遊びの援助、教材の特性、協働性等について、意欲的に考え授業に参加しようとしている。
- ②. 保育・教育における援助、指導内容、指導方法等に関する基本的内容について、理解している。
- ③. 保育・教育の現場で求められる研究力の習得に向けて、主体的に考えたり表現したりしている。

履修上の注意

- ①. 主体的・意欲的に学ぶ意欲や態度を重視する。
- ②. 探求力、課題解決力、プレゼン能力を重視する。
- ③. 遅刻・欠席のない学習態度、グループの仲間との協力的な学習活動を重視する。

予習・復習

- ①. 毎時間の授業終了時に予告される次回の学習概要を基に予習、質問内容を考える。
- ②. 発表者は、文献を読んだうえで、質問やコメントに応じられるように準備してくる。
- ③. 基本的に発表者は、前時にレジュメを配布することを常とする。

評価方法

- 全授業への出席を前提とし、毎時間のゼミでの発表内容、態度、質問、レポート等で評価する。
- 授業時に具体的な評価の内容を説明する。

テキスト

初回の授業時に指示する。

授業概要

日本と世界の童話や昔話などから代表的な物語について指導するとともに、研究発表のやり方についても指導します。一人一人が自分の興味に従って童話や昔話を選び、作品について及び教育・保育上の意義・取り上げ方などについて、調査・考察を重ねて研究発表を行います。また、聞き手も、発表内容について意見・感想・疑問点等を述べ、意見交換や討論を行います。この発表や意見に対して、指導を行います。卒業論文を書くことにつながるように、発表内容をレポート化することや隣接分野の書籍を読むことも指導します。

また、図書館・博物館などの外部施設見学も行います。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	世界の昔話研究「大きなカブ」
第 2 回	日本の昔話概説	第 17 回	世界の昔話研究「ジャックと豆の木」
第 3 回	日本の昔話研究「桃太郎」	第 18 回	世界の昔話研究 ペロー
第 4 回	日本の昔話研究「浦島太郎」	第 19 回	世界の昔話研究 グリム
第 5 回	日本の昔話研究「花咲か爺さん」	第 20 回	世界の童話概説
第 6 回	日本の昔話研究「猿蟹合戦」	第 21 回	世界の童話研究 イソップ
第 7 回	日本の昔話研究「かちかち山」	第 22 回	世界の童話研究 アンデルセン
第 8 回	日本の童話概説	第 23 回	世界の童話研究 ルイス・キャロル
第 9 回	日本の童話研究 小川未明	第 24 回	世界の童話研究 C・S・ルイス
第 10 回	日本の童話研究 浜田廣介	第 25 回	世界の童話研究 ローリング
第 11 回	日本の童話研究 宮沢賢治	第 26 回	施設見学 1 (国際子ども図書館等)
第 12 回	日本の童話研究 新美南吉	第 27 回	施設見学 2 (相田みつを美術館等)
第 13 回	日本の童話研究 松谷みよ子	第 28 回	施設見学 3 (ちひろ美術館等)
第 14 回	世界の昔話概説	第 29 回	施設見学 4 (東京子ども図書館)
第 15 回	世界の昔話研究 「三匹の子豚」	第 30 回	施設見学 5 (アンデルセン公園)
		第 31 回	施設見学 6 (三鷹の森ジブリ美術館)

到達目標

日本と世界の代表的な童話・昔話について知り、童話・昔話等の物語を学ぶための基礎的な知識を養うことが目標です。また、研究調査及び研究発表の方法を身につけ研究発表ができるようになり、同時に他の発表者から学ぶ姿勢も身につけます。

履修上の注意

授業態度、授業参加度を重視します。授業中に、毎回、交互に研究発表を行い、その内容を評価します。聞き手は、発表についての意見・感想・疑問等を述べ、それも評価に加えます。また、施設見学レポート等、提出物も評価に含めます。多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。

予習・復習

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不十分ですので、事前の自主学習が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

評価方法

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）
研究発表 40% レポート 40% 受講態度 20%

テキスト

教材・参考書等は、授業中に指示します。

授業概要

- ・幼稚園教諭、保育士の資格取得に向け、保育とは何か、そのために必要な要素とは何か、保育者の資質とは等について考察し、保育の方法等の基礎的な知識や技能を学ぶ。そして、就学前の乳幼児教育（保育）の在り方について考察する。世界の保育（乳幼児教育）方法についても、基本文献から学ぶ。
- ・後半は専門演習に向け、各自がテーマを決め、先行文献、参考文献・関連資料を読み解き、まとめて発表しあう。その際の小論文の作成方法や、プレゼンテーションの方法、質疑応答等、実践を通して研究し発表することについて学ぶ。

授業計画

第 1 回	ガイダンス①	第 16 回	ガイダンス②
第 2 回	保育所保育指針の概要	第 17 回	研究テーマの設定方法
第 3 回	幼稚園教育要領の概要	第 18 回	グループで研究テーマを探る
第 4 回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要	第 19 回	文献の検索方法
第 5 回	保育という営み	第 20 回	レポート作成の方法
第 6 回	保育に必要な要素	第 21 回	グループの研究テーマの設定
第 7 回	保育者の資質	第 22 回	小論文作成の方法
第 8 回	保育の方法①（基本）	第 23 回	グループ研究①
第 9 回	保育の方法②（保育園）	第 24 回	グループ研究②
第 10 回	保育の方法③（幼稚園）	第 25 回	グループ研究③
第 11 回	保育の方法④（認定こども園）	第 26 回	プレゼンテーションの方法・質疑応答について
第 12 回	世界の保育①（フィンランド・他）	第 27 回	発表準備
第 13 回	世界の保育②（アメリカ・他）	第 28 回	発表①
第 14 回	世界の保育③（フランス・他）	第 29 回	発表②
第 15 回	春期のまとめと意見交換	第 30 回	振り返りとまとめ

到達目標

- ・保育についての研究テーマの設定や検討・考察の方法について体験的に習得する。
- ・基本的な文章作成、ならびに調査・研究の方法について習得する。
- ・意見交換や質疑応答を通して、自分の意見を論理的に説明できるようにする。

履修上の注意

- ・積極的な、授業態度を求める。（遅刻・欠席は原則不可とする。理由のある方は事前に連絡すること。）
- ・前半は、授業内容について話し合い、まとめをレポートにして提出する。
- ・後半は、主体的に研究を進め、発表に向けてのスキルを獲得する。

予習・復習

- ・課題への予習を行い、配布資料の整理とその日の復習をしておく。
- ・発表に向けて、自主学習を進んで行う。

評価方法

- ・出席状況（30%）、授業態度・課題や授業への積極性（20%）、研究発表や提出物（50%）、以上の内容から総合的に判断する。

テキスト

- ・授業内で指示する。
- ・その他必要に応じて、資料を配布する

授業概要

「子どもと家族」についてさまざまな観点から学び、議論します。と同時に、3年次以降の専門的な研究をすすめるうえで必要となる、知識や作法を身につけます。また2年次の実習開始に際して必要となる文章力をつけるためのトレーニングも行います。

前期は家族社会学の基本文献をとりあげ、文献の読み解き方、参考文献や関連資料の探し方、レジュメの作成方法、プレゼンテーション、質疑応答におけるマナーなど、研究に必要なトレーニングを重ねていきます。今年度は筒井淳也著『仕事と家族 - 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』(2015, 中公新書)を取り上げました。毎回、取り上げる文献はゼミ生と相談して決めています。

後期はテーマセッションや文章トレーニング、グループ研究などにトライします。ゼミを通して人と議論し、自分の考えを深め、鍛えていく楽しさと難しさを経験してほしいと考えています。

授業計画

第1回	オリエンテーション～ゼミの作法	第16回	後期のすすめ方
第2回	そもそも研究ってなに？	第17回	文章実践トレーニング1
第3回	レジュメの作成と報告態度について	第18回	文章実践トレーニング2
第4回	テキストの読み解き方	第19回	文章実践トレーニング3
第5回	資料の探し方と質疑応答のやり方	第20回	テーマセッション1
第6回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）1	第21回	テーマセッション2
第7回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）2	第22回	テーマセッション3
第8回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）3	第23回	テーマセッション4
第9回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）4	第24回	グループ研究1
第10回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）5	第25回	グループ研究2
第11回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）6	第26回	グループ研究3
第12回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）7	第27回	グループ研究4
第13回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）8	第28回	プレゼンテーションの方法
第14回	輪読（家族社会学の基本文献を読む）9	第29回	研究報告会
第15回	前期のまとめ	第30回	まとめ～3年生にむけての課題

到達目標

「子どもと家族」をとりまく現代社会の問題について理解を深める。

3年次以降の専門的な学習に必要な知識や態度を身につける。

自分の研究関心のありかを明らかにする。

文章を書く練習をし、レポート作成や実習日誌作成のための力をつける。

履修上の注意

楽しく意欲的に学ぼうという態度を求める。

課題や報告に積極的に取り組むことを求める。

仲間と活発に議論する態度を求める。

仲間と協調し協力してグループ研究に取り組む態度が必要となる。

予習復習

報告者は、文献を読み、レジュメを作成するなど、報告準備をする。

それ以外の参加者は、文献を読んだうえで、質問やコメントを準備してくる。

グループ研究では、各自が毎回、作業を分担する。

評価方法

出席は当然重要である。そのうえで、ゼミでの報告態度と報告内容（40%）、議論への参加態度（30%）、課題レポート（30%）で、総合的に判断する。

テキスト

初回のゼミで参加者の興味・関心を確認したうえで、相談して決める。

授業概要

「子どもの貧困」「ひとり親家庭」「児童虐待」「ヤングケアラー」など、子どもや若い世代におきている社会福祉にかかわる問題や、児童養護施設・障害者施設での生活や利用児・者へのケア・対応について学び、興味・関心を高めていくこととする。春期は上記問題や子育て支援にかかわる報告書を購読し、秋期では各自の興味がある問題を取りあげ、解決や専門職のかかわりについて考えていくとともに、文章の書き方や表現のレベルアップにも取り組みたい。また、児童養護施設あるいは子ども食堂といった、支援の現場への見学も実施したいと考えている。

キーワード：子どもの貧困、ひとり親家庭、児童養護施設、虐待児のケア・対応、子ども食堂、子育て支援

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	子どもや若い世代に起きている問題	第 17 回	文献購読
第 3 回	子どもや若い世代に起きている問題	第 18 回	文献購読
第 4 回	子どもや若い世代に起きている問題	第 19 回	文献購読
第 5 回	児童虐待や子育て支援に関する報告書購読	第 20 回	文献購読
第 6 回	児童虐待や子育て支援に関する報告書購読	第 21 回	文献購読
第 7 回	児童虐待や子育て支援に関する報告書購読	第 22 回	個人発表にむけて
第 8 回	児童虐待や子育て支援に関する報告書購読	第 23 回	個人発表
第 9 回	児童虐待や子育て支援に関する報告書購読	第 24 回	個人発表
第 10 回	子どもの貧困やひとり親家庭に関する報告書購読	第 25 回	個人発表
第 11 回	子どもの貧困やひとり親家庭に関する報告書購読	第 26 回	個人発表
第 12 回	子どもの貧困やひとり親家庭に関する報告書購読	第 27 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 13 回	子どもの貧困やひとり親家庭に関する報告書購読	第 28 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 14 回	子どもの貧困やひとり親家庭に関する報告書購読	第 29 回	施設あるいは支援現場見学まとめ
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ、一年のふりかえり

到達目標

- 子どもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていく
- 報告書を購読することで統計情報の読み方を理解し、報告書全体の理解を深めていく
- 発表する力、発言する力、文章をまとめる力をより向上させていく

履修上の注意

- 子どもや若い世代に起きている問題や解決について、興味・関心があることを前提とする。社会福祉・児童福祉の現場での支援やケアに興味があることも望ましい。
- 報告書・文献購読では、その内容についてグループディスカッションを行うので、積極的な参加を求める。
- 遅刻、欠席はしないこと。

予習・復習

報告書や文献は発表にあたっていなくても、指定された範囲について事前によく読んでおくこと。その他、必要に応じて指示する。

評価方法

発表の内容・充実度 40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえ、総合的に判断する。

テキスト

秋期の演習で使用予定

- 教科書名：児童養護施設の生活環境のダイナミクス:家庭で暮らせない子どもの育ちと職員の実践
- 著者名：山口季音
- 出版社名：学文社
- 出版年：2021年

授業概要

心理学を基盤として現代社会の様々な課題に積極的に取り組む姿勢を養う。そのために、心理学（発達心理学、教育心理学）の基礎的文献等を用いて、発達や教育に関する心理学的な観点から調査方法や考察について学ぶ。

春期は、発達心理学、教育心理学の文献を扱い、文献の読み方、発表のしかた、さらには心理学の知識や概念を学ぶことを中心とする。秋期は、自分で選んだ発達心理学、教育心理学に関する文献を読み、その内容をまとめ報告を行ったり、自分たちでデータを収集し簡単な分析を行ったりすることから、心理学の理論や方法論についてさらに深く理解する。これらの活動を通じて、発達心理学、教育心理学の研究内容および研究方法を理解し、自らの興味関心に即した課題設定・研究計画立案につなげることを目的とする。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	こころについての知識	第 17 回	心理学の研究手法①（観察法）
第 3 回	心理学の研究の特徴とその過程	第 18 回	心理学の研究手法②（質問紙法）
第 4 回	研究に向けての学習	第 19 回	心理学の研究手法③（面接法）
第 5 回	文献の紹介、発表担当章の決定	第 20 回	問題意識の素材を集める
第 6 回	文献検索の方法	第 21 回	研究課題の設定
第 7 回	文献講読の方法	第 22 回	文献講読実践①
第 8 回	レジュメの作成方法	第 23 回	文献講読実践②
第 9 回	発表および質疑応答のしかた	第 24 回	文献講読実践③
第 10 回	文献講読実践① グループ 1	第 25 回	文献講読実践④
第 11 回	文献講読実践② グループ 2	第 26 回	文献講読実践⑤
第 12 回	文献講読実践③ グループ 3	第 27 回	プレゼンテーションの方法
第 13 回	文献講読実践④ グループ 4	第 28 回	最終報告会①
第 14 回	文献講読実践⑤ グループ 5	第 29 回	最終報告会②
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	全体の総括

到達目標

- 文献講読等を通して、発達や教育に関わる諸問題を理解することができる。
- 発達心理学および教育心理学の研究対象や研究方法を理解し、それらの研究に関する概要資料（レジュメ）を作成することができる。
- 発達や教育に関わる問題について、自らの興味・関心に合わせた研究課題を定めることができる。

履修上の注意

- 課題に対して主体的に取り組むことを求める。
- 文献講読等でグループワークを取り入れたり、議論を行ったりするため他の受講生との活動に対しても積極的な姿勢を求める。

予習・復習

- 授業で紹介した書籍、論文に関連する文献を自分で調べて読む。
- 発表担当の受講生もそれ以外の受講生も授業内での学習だけでなく、自主学習が必要である。

評価方法

授業への参加態度およびグループワークでの取り組み（50%）、文献講読レポート（50%）

テキスト

受講生の興味・関心を確認したうえで、授業内で指示する。

授業概要

この演習では、小学校教員を志望する学生を対象に、教育法規に関する学習を進めることにする。日本は法治国家である以上、教育の世界においても法規は大変重要であり、それゆえに教員採用試験でも最頻出領域である。

この演習を履修する時点で、現行教育法規について十分に学習する機会を得ていない（「教育法規」を履修しないとまとまった機会が得られない）ため、主要な教育法規について広く浅く理解していくことを主たる目的とする。未習事項が多いため、担当者による講義が中心となるが、質疑応答をはさみつつ理解を深めていく。一定のまとめりごとに問題演習の機会を設け、知識の定着を図ることにする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（ゼミの進め方）	第 16 回	いじめ・不登校に関する規定（1）
第 2 回	教育基本法（1）	第 17 回	いじめ・不登校に関する規定（2）
第 3 回	教育基本法（2）	第 18 回	障害を持つ子どもに関する規定
第 4 回	教育基本法（3）	第 19 回	児童虐待・人権に関する規定
第 5 回	学校の種類と目的に関する規定（1）	第 20 回	懲戒・体罰に関する規定（1）
第 6 回	学校の種類と目的に関する規定（2）	第 21 回	懲戒・体罰に関する規定（2）
第 7 回	就学に関する規定	第 22 回	問題演習③-1
第 8 回	問題演習①-1	第 23 回	問題演習③-2
第 9 回	問題演習①-2	第 24 回	教職員に関する規定（1）
第 10 回	学校運営に関する規定	第 25 回	教職員に関する規定（2）
第 11 回	学校保健・安全に関する規定	第 26 回	教職員に関する規定（3）
第 12 回	学校給食に関する規定	第 27 回	教育委員会に関する規定
第 13 回	教材・著作権に関する規定	第 28 回	問題演習④-1
第 14 回	問題演習②-1	第 29 回	問題演習④-2
第 15 回	問題演習②-2	第 30 回	まとめ

到達目標

- ・教育法規に関して基本的な知識を得る。
- ・現行教育法規が持っていないさまざまな問題点（だから法規は改正される）を理解する。

履修上の注意

- ・法規の文章は、正確さを求めるがために、恐ろしく回りくどい表現が用いられるので、粘り強く格闘すること。
- ・教育法規は小学校採用試験では頻出だが、他の試験ではほとんど見かけない。それゆえ、小学校教員を志望する人以外には、費用対効果が見込めない内容となるので、その点を理解した上で履修すること。

予習・復習

- ・適宜問題演習の機会は設けるが、授業後に自主的に教員採用試験問題を解いてみるとよい。知っていさえすればあっさり正解してしまうという、冷静に考えればごく当たり前の事実を体感してほしい。

評価方法

- ・法規の内容の理解度（50%）、輪講における成果（50%）

テキスト

- ・教科書名：教職教養の要点理解（2023 年度版）
- ・著者名：時事通信出版局（編）
- ・出版社名：時事通信社
- ・出版年：2021 年

授業概要

小学校教員として必要な各教科、領域の基礎的な知識を、演習を通じて学びます。実際の授業における子どもの思考の様子も参考にしながら、小学校における授業づくりについて学びます。

春期は国語、社会、算数を中心に、秋期は理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動を中心に、基礎的な事柄、各教科、領域の体系的な枠組みについて学習します。

授業は演習形式とし、発表、討論を中心に行います。

授業計画

第 1 回	授業ガイダンス	第 16 回	理科の授業づくり (生命)
第 2 回	国語の授業づくり (話すこと・聞くこと)	第 17 回	理科の授業づくり (地球)
第 3 回	国語の授業づくり (書くこと)	第 18 回	生活の授業づくり (活動や体験)
第 4 回	国語の授業づくり (読むこと)	第 19 回	音楽の授業づくり (表現)
第 5 回	国語の授業づくり (伝統的な言語文化)	第 20 回	音楽の授業づくり (鑑賞)
第 6 回	社会の授業づくり (地域の産業)	第 21 回	図画工作の授業づくり (表現)
第 7 回	社会の授業づくり (地域の地理的環境)	第 22 回	図画工作の授業づくり (鑑賞)
第 8 回	社会の授業づくり (国土や産業)	第 23 回	家庭の授業づくり (衣食住)
第 9 回	社会の授業づくり (歴史や政治)	第 24 回	体育の授業づくり (運動)
第 10 回	算数の授業づくり (数と計算)	第 25 回	体育の授業づくり (保健)
第 11 回	算数の授業づくり (量と測定)	第 26 回	道徳の授業づくり (道徳的実践力)
第 12 回	算数の授業づくり (図形)	第 27 回	外国語活動の授業づくり (コミュニケーション)
第 13 回	算数の授業づくり (数量関係)	第 28 回	総合の授業づくり (探究活動)
第 14 回	理科の授業づくり (物質)	第 29 回	特別活動の授業づくり (学級活動)
第 15 回	理科の授業づくり (エネルギー)	第 30 回	授業研究のまとめ

到達目標

- ・小学校の各教科、領域の枠組み (構造) について説明できる。
- ・小学校の各教科、領域の基礎的な内容、事柄について説明できる。

履修上の注意

- ・発表、討論を中心に行うので遅刻しないこと。
- ・順番に発表を行うので、欠席しないこと。

予習・復習

- ・授業で発表、討論できない学習項目については、自分で学習し理解しておくこと。

評価方法

- ・発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40% で評価する。

テキスト

- ・教科書名：小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)
- ・著者名：文部科学省
- ・出版年 (ISBN)：平成 29 年 3 月

- ・教科書名：小学校学習指導要領解説 総則編 (平成 29 年告示)
- ・著者名：文部科学省
- ・出版年 (ISBN)：平成 29 年 7 月